



二輪車産業政策 ロードマップ^o2030

ご説明

二輪車産業政策 目指す姿・ロードマップ^o2020 振返り

2014年二輪車産業政策ロードマップ発表資料

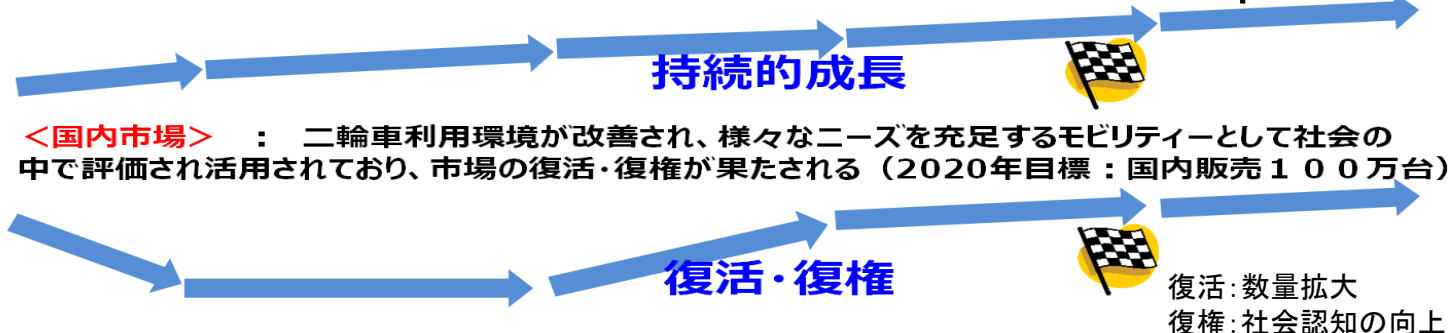
バイク産業が目指す姿(2020年)

- 1.国内販売 100万台
- 2.世界シェア50%超
- 3.マナー向上

目指す姿 = Vision = 実現すべき将来像

<グローバル市場> : 将来もジャパンブランドが世界の二輪車産業をリードし、世界各国の生活向上や産業発展に貢献し、日本の国益に寄与し続けている (世界のバイクの2台に1台はJapanBRAND)

<国内市場> : 二輪車利用環境が改善され、様々なニーズを充足するモビリティとして社会の中で評価され活用されており、市場の復活・復権が果たされる (2020年目標 : 国内販売100万台)



	短期課題			中期課題			長期課題	KPI (成果目標)
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020~	
<div style="border: 1px solid red; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">9つの政策課題</div> 1. 個社で努力 2. 業界と協働 3. 行政の支援	安全・安心な二輪車						<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> (KPI例) 社会の二輪に対する評価が顕著に向上している。 機動性や利便性が再評価されている。 安全教育が全国に普及。 頭部、胸部打撲事故防止策の成果具現化。 </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> ゴールイメージを設定し、 行動計画の道筋を作る </div>	
	社会との共生実現							
	社会基盤の整備							
	免許制度の見直し							
	快適・楽しさの訴求							
	通商産業政策への取組み(新興国向け)							
	知的財産権保護(新興国向け)							
	交通安全への取組み							
	国際基準調和推進							

二輪車産業政策 ロードマップ2030 方向性

ロードマップ策定の前提

ロードマップ2020 目標の総括

国内販売
100万台

- **未達成（2020年実績：36万台）**
→国内新車販売100万台をありたき姿として捉え、国内二輪市場全体の活性化を目指す

世界シェア
50%超

- **達成（2019年実績：50.2%¹⁾）**
→ロードマップ目標には掲げず

マナー向上

- **業界活動展開・継続により向上**
→継続課題として取組

ロードマップ2020 策定時からの主な環境変化

カーボン
ニュートラルへの対応

所有以外での
バイクの利活用の普及

新しい
モビリティの出現

コロナ禍における
ニューノーマル

ロードマップの方向性

- **ロードマップ2020の継続課題に加え、環境変化を踏まえた新規課題を整理**
- **新車販売に留まらない、国内二輪市場全体の活性化を目指す**

1) 出典：総需要はヤマハ発動機Factbook、各メーカー台数は決算資料より作成（ホンダ発表の北米市場のバイク販売台数はAVT等との合算値のためバイク販売台数を'18年シェアから推計）

ビジョン、ロードマップ^o2030 目標

ビジョン
(ありたき姿)

二輪車ならではの価値提供を通じ、人々の暮らしに「感動」を届け、
日本経済・社会と二輪市場の発展、雇用維持に貢献

世界に通用する素晴らしいバイク文化の創造とイメージ向上

ロードマップ^o
2030目標

社会への責務を遂行しつつ、2030年代初頭に向けて国内二輪市場を活性化

二輪車
ならではの
提供価値



社会へ
果たす責務

移動需要、モビリティが多様化する中で
手軽・快適でエコフレンドリーな移動・輸送を
支えるパーソナルな“生活の足”を提供
〈実用視点〉

人々の生活と価値観が多様化する中で
関連する趣味・娯楽と結びつきを深め
様々な“二輪車の楽しさ”を提供
〈趣味視点〉

2050年カーボンニュートラル
達成への貢献
〈環境視点〉

技術・仕組みの両面から
2050年事故死者数ゼロを目指す
〈安全視点〉

実施施策と2030年ゴールイメージ (1/3)

政策課題

事故死者数ゼロ

政策課題の方向性

1. 実用・趣味利用の双方に向けた安全運転啓発・教育

- 実施施策
- ① 一般ライダー向け安全運転教育の充実と啓発
 - ② 二輪車利用高校生への安全運転教育の充実と体制強化
 - ③ 二輪車利用事業者・通勤利用者への安全運転教育の強化

2030年ゴールイメージ

2050年事故死者数ゼロを目指して

- 二輪事故死者数半減
(2020年比 警察庁データ)
- ヘルメット脱落による死亡事故半減
(2020年比 警察庁データ)
- 胸部プロテクター有用性の認知度向上

2. 安全装備の普及拡大

- ① ヘルメットの適正着用、胸部プロテクターの着用推進
- ② 運転に適したウェア、プロテクターの着用推進と啓発

カーボンニュートラル達成への貢献

政策課題の方向性

3. 二輪車のカーボンニュートラル達成に向けた現実的な施策の策定と着実な推進

- 実施施策
- ① 電動二輪車の普及に向けた充電システム等の普及・推進
 - ② 環境負荷の低い二輪車の特性を踏まえた、短距離移動の用途からの電動化
 - ③ エネルギー・インフラ政策と連動した、カーボンニュートラル達成に向けた電動車、合成燃料等の普及に向けた着実な推進

2030年ゴールイメージ

- 電動車、合成燃料対応車等によるカーボンニュートラル達成への貢献

実施施策と2030年ゴールイメージ (2/3)

購入・利用環境の整備と社会・他モビリティとの共生

政策課題の方向性

実施施策

2030年ゴールイメージ

4. 二輪車の役割・優位性の整理 と地方公共団体と連携した 環境整備推進・啓発

- ① 新しいモビリティの出現を踏まえた混合交通での役割と優位性の整理
- ② 上記の証明やそれを踏まえた環境整備のために地方公共団体と連携し推進・役割を啓発

- 二輪車有用性の認知度35%
(2021年 25% → 2030年 35%*)

*2021年8月 自工会調べ

5. 社会基盤の整備

- ① 地方公共団体、関係団体と連携した駐車場整備の推進と駐車場規制に対する提言
- ② 高速道路の二輪車料金の適正化に向けた推進
- ③ 二輪車の通行帯確保と通行禁止規制解除に向けた活動推進
- ④ 二輪車のあるべき車両区分と免許制度の見直し

- 駐車違反件数の半減
- 2025年に設定した駐車場目標数の達成
- 高速料金車種区分独立
- 高速料金普通車の半額
- 料金所ETC利用率100%
- 二輪車が安全に走行できるレーンの確保
- 時代の変化に対応した車両区分の見直し

6. 社会との共生実現

- ① 不正改造の撲滅に向けた活動推進
- ② バイク防災隊支援活動

- 不正改造の撲滅による二輪車のイメージの向上
- 二輪車活用による社会貢献活動により、社会や市民から必要とされる

7. 保有以外の二輪車利用拡大 への対応

- ① レンタル・シェアの成長のための協調領域の整備

- レンタルの認知度70%
(2021年 39% → 2030年 70%*)

*2021年8月 自工会調べ

実施施策と2030年ゴールイメージ (3/3)

購入・利用環境の整備と社会・他モビリティとの共生

政策課題の方向性

実施施策

2030年ゴールイメージ

8.販売店のさらなる信頼性向上

- ① 公正競争規約の遵守に向けた販売店指導
- ② 販売店での店頭安全指導の強化

- 公正競争規約を遵守する販売店の拡大
- 販売店スタッフの二輪車安全運転指導員の増加

9.安心な中古車市場の拡大

- ① 購入者に対する優良中古車の選び方の発信
- ② 走行距離改ざん防止策の推進

- インターネットでの中古車の品質確認に関する情報の拡充
- ユーザーへ向け、走行距離の表示ルールにもとづく適正表示の徹底化

快適・楽しさの訴求

政策課題の方向性

実施施策

2030年ゴールイメージ

10.若者、潜在ユーザーへの情報発信

- ① 若者、潜在ユーザーに向け二輪車の魅力を伝える為の発信内容とその適切な発信手法の検討
- ② 関連趣味・娯楽の業界団体とのコラボレーション企画検討(キャンプ、ファッション、e-sports等)

- 二輪車への好感度30%
(2021年 21% → 2030年 30%*)

*2021年8月 自工会調べ

11.地方公共団体と連携した取組み・仕組み作り

- ① 二輪車の魅力を伝えるイベントの開催・他地方公共団体への横展開や二輪車の有用性を活かした観光資源開発

- インバウンドも含めたバイクツーリズムの活性化

実施施策と実施団体 まとめ

JAMA	日本自動車工業会	JAPIA	日本自動車部品工業会
AJ	オートバイ事業協同組合	JABA	日本二輪車オークション協会
JMPSA	日本二輪車普及安全協会	JMCA	全国二輪車用品連合会
JAIA	日本自動車輸入組合	UMDA	中古二輪自動車流通協会

政策課題の方向性	実施施策	実施団体								
政策課題		JAMA	AJ	JMPSA	JAIA	JAPIA	JABA	JMCA	UMDA	地方公共団体
事故死者数ゼロ										
■ 実用・趣味利用の双方に向けた安全運転啓発・教育	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一般ライダー向け安全運転教育の充実と啓発 ■ 二輪車利用高校生への安全運転教育の充実と体制強化 ■ 二輪車利用事業者・通勤利用者への安全運転教育の強化 	●	●	●	●	●	●	●	●	
■ 安全装備の普及拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ ヘルメット、胸部プロテクターの適正着用推進 ■ 運転に適したウェア、プロテクターの着用推進と啓発 		●	●	●				●	
カーボンニュートラル達成への貢献										
■ 二輪車のカーボンニュートラル達成に向けた現実的な施策の策定と着実な推進	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動二輪車の普及に向けた充電システム等の普及・推進 ■ 環境負荷の低い二輪車の特性を踏まえた、短距離移動の用途からの電動化 ■ エネルギー・インフラ政策と連動した、カーボンニュートラル達成に向けた電動車、合成燃料等の普及に向けた着実な推進 	●			●					
		●			●	●				
		●	●		●	●				
購入・利用環境の整備と社会・他モビリティとの共生										
■ 二輪車の役割・優位性の整理と、地方公共団体と連携した環境整備推進・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しいモビリティの出現を踏まえた混合交通での役割と優位性の整理 ■ 上記の証明やそれを踏まえた環境整備のために地方公共団体と連携し推進・役割を啓発 	●	●	●						●
■ 社会基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地方公共団体、関係団体と連携した駐車場整備の推進と駐車場規制に対する提言 ■ 高速道路の二輪車料金の適正化に向けた推進 ■ 二輪車の通行帯確保と通行禁止規制解除に向けた活動推進 ■ 二輪車のあるべき車両区分と免許制度の見直し 	●	●	●	●					●
■ 社会との共生実現	<ul style="list-style-type: none"> ■ 不正改造の撲滅に向けた活動推進 ■ バイク防災隊支援活動 		●	●			●	●		●
■ 保有以外の二輪車利用拡大への対応	■ レンタル・シェアの成長のための協調領域の整備	●	●		●					
■ 販売店のさらなる信頼性向上	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公正競争規約の遵守に向けた販売店指導 ■ 販売店での店頭安全指導の強化 		●	●			●			
■ 安心な中古車市場の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ■ 購入者に対する優良中古車の選び方の発信 ■ 走行距離改ざん防止策の推進 		●				●		●	
快適・楽しさの訴求										
■ 若者、潜在ユーザーへの情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者、潜在ユーザーに向け二輪車の魅力を伝えるための発信内容とその適切な発信手法の検討 ■ 関連趣味・娯楽の業界団体とのコラボレーション企画検討（キャンプ、ファッション、e-sports等） 	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		●	●	●						
■ 地方公共団体と連携した取組み・仕組み作り	■ 二輪車の魅力を伝えるイベントの開催・他地方公共団体への横展開や二輪車の有用性を活かした観光資源開発	●	●	●	●	●	●	●	●	●

政策課題の方向性 -事故死者数ゼロ-

実施施策

実施団体 JAMA AJ JMPSA JAIA JAPIA JABA JMCA UMDA

実用・趣味利用の双方に向けた安全運転啓発・教育

安全装備の普及拡大

グッドライダーミーティングの開催



高校生への安全運転教育の推進



ヘルメット適正着用・胸部プロテクター着用推進*

*実施団体 AJ JMPSA JAIA JMCA

高校生安全運転講習会の開催



安全運転教育の好事例を紹介



安全運転教育の充実を訴え



「第46回二輪車安全運転推進運動」ポスター



JMCA胸部プロテクター推奨制度
<2016年8月からスタート>

ゴールイメージ

二輪事故死者数半減

2050年事故死者数ゼロを目指して

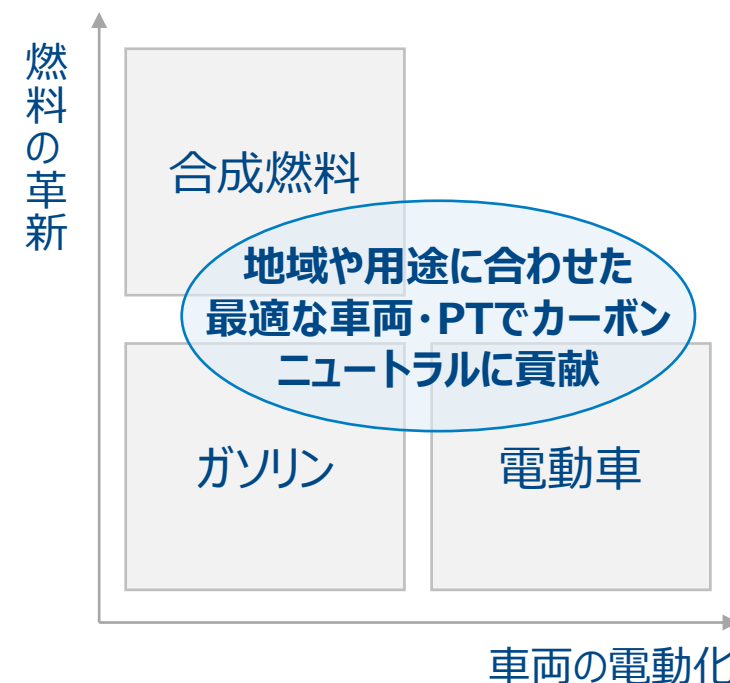
ヘルメット脱落による死亡事故半減

胸部プロテクター有用性の認知度向上

カーボンニュートラルへの取組みのポイント・考え方

- 2050年の実現に向け、答えは1つではない
- 政府のエネルギー政策やインフラ政策など社会全体での変革が必要不可欠
- 国の全産業を挙げてのチャレンジが必要

多様なパワートレインの可能性追求



実施施策

電動バイク実証実験プロジェクト「eやんOSAKA」

大阪府・大阪大学・自工会・ローソンの産官学連携による交換式バッテリーを用いた電動二輪車普及に向けた実証実験。2020年9月末より開始



電動二輪車交換式バッテリーコンソーシアムによる バッテリー交換システム標準化

電動二輪車用交換式バッテリーの相互利用を可能にする標準化への合意を、2021年3月26日に発表



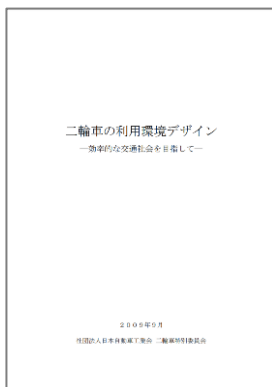
ゴールイメージ

電動車、合成燃料対応車等によるカーボンニュートラル達成への貢献

実施施策

実施団体 JAMA AJ JMPSA 地方公共団体

今までの取組



■2009年に「二輪車の利用環境デザイン」として以下、2観点から調査を実施

- 求められる環境対応と交通渋滞緩和
- ユーザーにとっての有用性



東京都内で交通渋滞している路線において、**二輪車の混合率を高めるシミュレーションを行うと、交通の流れが円滑化され、交通全体の平均旅行速度が上昇するケースがある**

(参考) 求められる環境対応と交通渋滞緩和の調査結果



二輪車は占有する走行スペースが小さいため、道路空間に余裕が生まれる。そのぶん交通が円滑になり交通渋滞が緩和されることも期待できる

今後の実施施策

「二輪車の利用環境デザイン」策定時からの環境変化を踏まえ

- 新しいモビリティの出現等の環境変化を踏まえた混合交通での役割と優位性の整理
- 上記の証明やそれを踏まえた環境整備のために地方公共団体と連携し推進・役割を啓発

ゴールイメージ

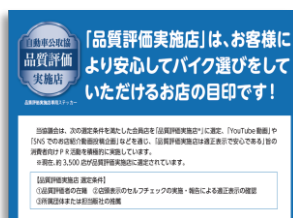
二輪車有用性の認知度35%

実施施策

公正競争規約の遵守に向けた販売店指導

店頭表示の セルフチェック実施 (実施率の向上)

- 「公取協会員店は適正表示で安心」を一般消費者へ訴求
- 公取協会員店は、店頭表示のセルフチェックを毎年、実施、適正表示を維持・促進



品質評価者講習の実施 (更新対象者の更新率・ 品質評価者の在籍店率の向上)

- 2020年から講習会を全てEラーニングにて実施(以前は座学講習)
- Eラーニング講習への移行に伴い、通年での実施を準備、受講を徹底・促進



「品質評価者実施店」の拡充と 積極的なPR実施

- 店頭表示のセルフチェック及び品質評価者講習を通じ、適正表示実施「品質評価実施店」への選定拡充
- SNSを活用し、適正表示で安心の「品質評価実施店」を一般消費者にPR



ゴールイメージ

公正競争規約を遵守する販売店の拡大

実施施策

販売店での店頭安全指導の強化

店頭個別安全指導の 実践

納車・点検を通じ、初心者/リターンライダーを中心に店頭安全指導実施。お客様の安全確保と信頼性向上を図る。グッドライダー宣言を通じて安全意識の向上を図る



店頭安全指導ツールの 作成

店頭安全指導活動支援ツールやポスター等を作成、販売店での安全指導をサポート。ポスター等を通じて安全意識向上を図る



販売店従業員への 二輪車安全運転 指導員資格の取得推奨

販売店従業員に二輪車安全運転指導員資格の取得を推進、より高度な店頭安全指導や、ライディングスクールの開催などを実施して戴く



二輪車安全運転 指導員在籍店をPRし 信頼性向上

指導員等資格保有者が在籍している販売店に対して店頭表示用プレートを製作配布。お客様からの信頼性を向上させる



ゴールイメージ

販売店スタッフの二輪車安全運転指導員の増加

実施施策

販売店向け走行距離確認サービスや走行距離巻き戻しの抑止等を目的とした啓発

販売店向け走行距離確認サービス



走行距離数巻き戻しの抑止等を目的とした啓発



ゴールイメージ

インターネットでの中古車の品質確認に関する情報の拡充
ユーザーへ向け、走行距離の表示ルールにもとづく適正表示の徹底化

実施施策

<近年の市場動向(国内メーカー系列販社へのヒアリング)>

- ・若者ユーザー*比率の高いモデルが好調
- ・レンタルにおいても若年層の会員構成比が高い

<背景>

- ・閲覧メディアの変化（動画投稿サイト等）による
バイクを目にする機会の拡大
- ・危険を感じさせない等身大のバイク動画の拡大
(*若者ユーザー：16～29歳)

<若者ユーザーの特徴>

- ・バイク選択の基準
 - 従来の二輪車の魅力(速さ、機能等)とは異なる価値観で選んでいる。
パワーだけで選ぶのではなく、デザイン・雰囲気重視
 - 絶対性能ではなく、デザインでカウル付きバイクが格好良いという理由で選択する若者も多い
- ・バイクに対する考え方
 - 仲間と楽しむ趣味、キャンプやグルメのんびり楽しむ相棒**
 - 身の丈サイズで安全に楽しく乗りたいという考え方、安全運転意識高い(胸部プロテクターの着用等)

■若者、潜在ユーザーに向け二輪車の魅力を伝えるための 発信内容とその適切な発信手法の検討(BLFS8団体)

■関連趣味・娯楽の業界団体とのコラボレーション企画検討(キャンプ、ファッション、e-sports等)

→近年、増加傾向の若者ユーザーに向け、その特徴を押さえた情報発信強化により、さらなる二輪車への好感度向上を狙う

ゴールイメージ

二輪車への好感度30%

(各実施施策の) 2030年ゴールイメージ

ロードマップ2030
目標

社会への責務を遂行しつつ、2030年代初頭に向けて国内二輪市場を活性化

社会への責務の遂行

二輪車ならではの提供価値

世界に通用する素晴らしいバイク文化の創造とイメージ向上

ビジョン
(ありたき姿)

二輪車ならではの価値提供を通じ、人々の暮らしに「感動」を届け、
日本経済・社会と二輪市場の発展、雇用維持に貢献

SDGs目標達成に
資する関連施策



■ 実用・趣味利用の
双方に向けた安全
運転啓発・教育



■ 二輪車のカーボンニュートラル達成に向けた現実的な施策の策定と着実な推進



■ 社会基盤の整備
■ 二輪車の役割・優位性の整理と、地方公共団体と連携した環境整備推進・啓発
■ 保有以外の二輪車利用拡大への対応

二輪車産業政策ロードマップ2030 概要

ビジョン（ありたき姿）

二輪車ならではの価値提供を通じ、人々の暮らしに「感動」を届け、日本経済・社会と二輪市場の発展、雇用維持に貢献

提供価値・社会
へ果たす責務

社会へ果たす責務

安全

環境

二輪車ならではの提供価値

実用

趣味

政策課題

政策課題の方向性（展開時期とその狙い）

ロードマップ
2030目標

継続課題

新規課題

短期：2021年～

足元の継続的な
取組

中期：～2025年

CNやコロナ対応等を
踏まえた新たな取組

長期：～2030年

ニューノーマルの世界
での施策展開

事故死者数
ゼロの推進

安全運転啓発・教育

CN達成への貢献

安全装備の普及拡大

購入・利用
環境の整備と
社会・他モビリティ
との共生

CN達成推進

役割・優位性/環境整備

社会基盤の整備

社会との共生

利用拡大(レンタル、シェア)

販売店信頼性向上

安心な中古車市場

快適・楽しさの
訴求

魅力情報発信

魅力情報発信(コラボ企画等)

地方公共団体連携

取組み・仕組み作り(ツーリズム)

社会への責務を遂行しつつ、2030年代初頭
に向けて国内二輪市場を活性化